京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 一ヶ月金三十錢 ▲三ヶ月金九十錢 ▲六ヶ月金一圓八十錢 ▲一ヶ年金三圓五十錢
廣告料 每行 ■ 錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久藤一郎
發行所 京城新報社 京城西小門通
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南鍋町■■番地

●冥府の伊藤公へ（十二）　恐々縮々庵主人

◉閣下若し京城の發達の度が今日の盛にして十年二十年と進まん乎京城は優に日本內地の各名都會を凌ぎ遂には京都を拔いて東京大阪と追蹤し三府の名稱を贏ち得るにいたるも未だ知るべからず而も發達の機運は刻々と迫り之れが發達の動機たる歐亞大陸との交通は近き將來に於て開始されんとす加ふるに過日來鮮したる萬國寢臺會社の代表者たるエベル氏は『シベリヤ線の復線工事にして完成せん乎京城よりパリー迄僅々十日間の日子を以て交通するを得べし』と斷言せり發達の盛況歷々火を睹るよりも瞭かなるは言ふ迄もなし要するに是は固より當局が常に朝鮮の開發に意を用ふる爲めなりと云へ亦在鮮內地人が朝鮮の開發に就て多年奮勵努力せし結果に外ならず然るに從來の當局の中には朝鮮の開發を以て一に當局の努力に依るものとなして移住民の効を認めず而已ならず此等の尊ぶべき敬すべき內地移住民の多くを目して無賴不逞の徒となし常に彼等を蛇蝎視し仇敵視して止まざるものありたり其の心得違ひも亦た甚しからずや

◉閣下予を以て忌憚なく言はしむれば閣下は當時少なくとも表面上朝鮮人を本位とし內地の移住民を第二位に置きたるやの傾ありされば當時世人の或るものは閣下の此の遣口を目して「公は朝鮮人に對してはやさしきも內地人に對しては嚴重なり」との怨言を放ち私に閣下の反省を促したりきされど今日にいたりて當時に於ける閣下の心中を仔細に點檢稽察すれば時代の關係上其の間已むを得ざるものゝあつて存するを認めずんばあらず所謂當時に於ける時代の關係は一に閣下を驅つて表面斯くなさゞるべからざるの羽目にまでは立ち至らしめたり恰かも之れを譬ふれば一家の主人が家族に對して徒らに口八ケ間敷きが如きも他人に對してはやさしき言葉を用ひ以て一見主賓の區別を殊更に明にしたるも毫も異なる所なし閣下豈に敢て故意に朝鮮人に厚く內地人に薄きの擧に出づるものあらんや閣下當時の苦衷始めて今に至つて諒たり

◉閣下日韓併合の結果當然廢止さるべきものにして今尚現存するもの少なからず中に就て居留民團制を以て其の重なるものとす尤も同問題は從來古き歷史を有し且つ幾多の事情存じ從つて一朝一夕に之れが撤廢を見る能はず當局に於ても目下盛んに之れが撤廢後の方法に就ての計策を廻らしつゝあり何れは早晚發表實行の期を見るにいたるべき勿論なりと雖も唯其の方法が如何の形体に依つて現はれ來るべきか或るものは自治の機關を所在府廳に直屬せしめ同時に有權者をして從來の民團議員の如きものを民間より撰擧せしめ一方府廳內に諮詢機關を設け自治の問題に就て一々議員に諮り採否の權は當局自ら之れを定むるの方法を採るに非ずやと豫想す豫想蓋し適中するや否やは知らずと雖も何れにもして自他の認めて以て完全なる方法に依りて其の實現の一日も速かならん事を望まざるを得ず閣下然るに非ずや（九日午後二時稿）

寄書

●總督政治の革新を促す（下）

日本法律學士　岩本英夫

合邦前後明石將軍の如きは憲兵隊行部下を指揮し朝鮮の公安保持に勉め禍を未發に防ぎ合邦を無事に遂行したる功勞は感謝せざる可からず故に合邦前後例令憲法違反の行爲ありとするも余は寺內總督及明石將軍の功勞に對し默然すべき所以なり然れども朝鮮の合邦も寺內總督及明石將軍の功績に依り無事に行はれ秩序整然として平和の時世に復したる今日尚は總督政治を革新せず臣民の三大自由を無視し憲法違反を繼續する如き事あれば旗鼓堂々總督の秕政を鳴らし憲法違反を絶叫せざる可からず余曾て帝國議院に臨み現內閣政友會出身の大臣及政友會主腦の代議士と會談すること數回談話適々總督政治に及び何れも一致同意にて總督政治は憲法違反なりと主張せしのみならず國民に向て宣言せしは余の言を俟たずして皆人の知る所なり故に現內閣は政友會內閣、政友會內閣の朝鮮統治方針と從來寺內總督が執り來りたる統治方針とは如上の事實に照し大に背馳する所ありと信ず寺內總督は　天皇に直隷すと雖ども政治の統一を圖る爲め朝鮮統治に付ては內閣總理大臣の意志を繼承せざる可からず然る時は內閣主班大臣は政友會出身なれば朝鮮統治に付ては從來國民に向て宣言したる方針を以て寺內總督と政治の統一を圖る當然の事理なりとす亦寺內總督も內閣主班大臣の意志は政友會の意志なれば該意志を繼承し總督政治の革新を圖るが自今の急務にして亦國民の幸福を增進する所以なればなり賢明なる寺內總督は秩序整然として平和の時代に復したる今日總督政治の革新を斷行するは余の默辯を要せざると吾人は憲法の附與したる權利を擁護する爲め總督政治の革新を促がさんとす寺內總督にして總督政治の革新を圖らず憲法違反の行爲ありとすれば現內閣の一味徒黨なる政友會を責めざる可からず政友會は總督政治の方針に憲法違反なりと絶呼しながら其儘に寬過するは余を欺き國民を欺き且つ非立憲的なる政治を擁護するものなりとの誹を免れざるなり今や天下の民心は總督政治の革新を促し寺內總督は戊申の詔勅に則り民心の歸向を誤らざる樣一日も早く總督政治の革新をなし國民の幸福を增進せられんことを切望して止まざるなり

外事　束

▲墺國● 皇嗣キール軍港にて獨帝の優遇を享け御召艇に搭し海軍演習に列す
▲之と● 同時墺獨海相各々他皇帝より高貴の勳章を授けらる二者親交言不要
▲駐獨● 佛使館に摩國問題の提案を示さん
▲獨宰相外相審議カイゼルに奏上せん
▲日露● 戰後土國日本に傾倒し議院制度の範を我に採らん說新紙の題となる
▲獨帝● 皇后皇太子明春を期し土首都君士坦丁堡に訪問せんと活動專日なし
▲英獄● 獨佛交涉に悲觀し疑惑と不穩の風說などに覆るも外相避暑故樂觀せ[illegible]
▲四日● 佛國ツーロンに五日獨國キールに各示威的大觀艦式を行ひ民激勵す
▲キール● 觀艦式盛大英國海面を壓して列る軍艦百隻內密造ド級船數隻あり
▲獨人● 神經過敏早くも貯蓄銀行取付有民心動搖宣戰布告今か今かと期待す
▲波斯● 廢帝軍はテヘラン附近に大敗し再び回復不可能の大打擊を蒙れりと
▲東三● 財政窮乏四國借款を給するに足らず正金取締小田切並率新借款說出
▲甘肅● 省境の蒙古王府政府に新政に抗し兵を擧ぐト確聞す邊境次第に不穩

◉新刊紹介

◎新公論秋季倍號● 堂然たる雜誌なり「性慾研究の必要」「世界各國性慾研究書概說」「性慾と種改造」「性慾の新觀察」何れも讀むべく全篇性慾に關する記事を揭ぐ（一部四十三錢東京本鄉區東片町新公論社）

◎家庭の友● 「婦人の服裝は何うなるか」との懸案の下に三宅醫學博士外七名家の意見を揭ぐ更に「危うき娘の前途」と題する名家の說を載する何れも好讀物たるを失はず（一部十一錢東京本鄉東片町新公論社）

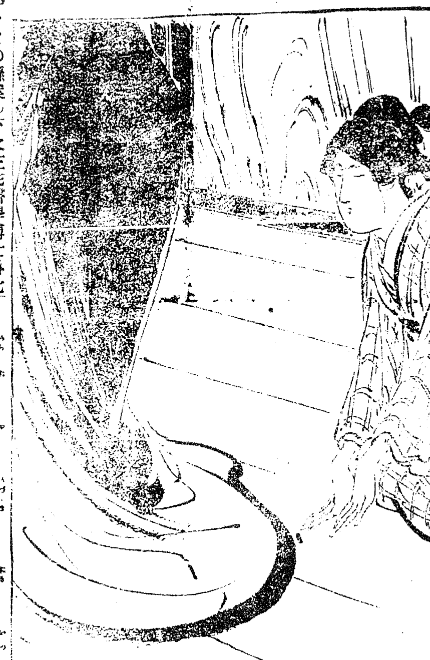
◎社會政策● 板垣伯の「樂世主義と禁慾主義」「救濟策」「公娼を廢に就て」の論文何れも一見地を有する其の他名家の議論一々首肯するに足る（一部十五錢東京芝公園社會政策社）

◎滿韓の實業● 論文人物評產業雜纂欄何れも讀むべし一般に於て趣味多く見る所少なからじ（一部二十五錢京城大和町一丁目滿韓實業協會）

◎心の花● 極めてやさしき記事のみを揭ぐ佐々文博學士「夏の一日」は文章なら〳〵として讀み心地よし（一部十三錢東京日本橋區本石町竹柏會出版部）

◎ニコ〳〵● 號を追ふて益々ニコ〳〵の本領を發揮す「石の上にも三年」「面白き事もなき世を面白く住みなすものは心なりけり」二文及び其の他の記事は何れも讀み了つてニコ〳〵たらざるを得ざらしむ（一部五錢東京々橋區金六町ニコ〳〵俱樂部）

◎俳味● 「己が爲め」「俳諧一夕話」「他の句」等は素人が讀んでも俳味の趣を感せしむ從つて体裁も徹頭徹尾俳人じみ居れり（一冊十二錢東京本鄉區駒込西片町俳味社）



召使お初　第百四十六回

黑法師



「いね」と相生は聲を鋭く「云はねば爲りませぬ、斯樣の大事を此まゝに致しては、以後の懲戒に爲りませぬ、何日でござりましたかな、私部屋でお長襦袢の紛失した事でござりました、これもお道どの所業かも知れませぬ、何のお草履にさへ手を掛けなさるお人ぢやもの、お襦袢にも、お湯文字にも、目をお注けなされぬ筈でござりませぬ、はゝ恐やの、はゝ怖しやの、存せぬ事とは云ひながら、私共長の月日、お盜人と同役に居たぢやわの」

お道は立ちも遣らず蹲りて、思はぬ疎忽を辯解すべきやうも無く、腸も煮え返る不覺の涙に暮れたりき

「皆樣、お氣をお注けなされませ、大それた盜人、同じ御殿に勤めする身は何かに付けてお用心が肝要でござります、眞に〳〵蟲も殺さぬお優しいお姿で在らせながら、他人の物に手をお掛けなさらうとは、お釋迦樣でも御存じはござりますまい」

獸にお道、今日の所爲は、飢えたる狼の群に入りたる小羊なりき、肉、骨、皮膚の總を擧げて、悉く恐ろしき牙に掛けられぬ

國尾若江、及び此座の御主たる奧方も、恐しき狼の血に狂ひ、欲に盛るを、制し止む手術無くて、徒に胸を痛むるのみなりき、惡魔の時を得て跳梁跋扈する間、神々皆なうの爲んやうを見て在すが例なりき、やがて惡魔の力竭きん時、徐に懲戒の手を下し給ふも、一れんは彼等の跳梁に任し置く外あるまじきが、現證を通しての穿鑿なりき

「恐しい事でござります、古句さし出し、御褒美を得させられうとした、そのお體みの叶はせられぬ腹愁せ、澤野樣のお草履を盜まうと爲させられた、お心の穢さは、恰でお乞丐でござりまするな」と女中共は口々に云ふ

「お道樣の所爲、乞丐よりまだ劣りでござるわの、乞丐とて人間、他人の居る前で卑しい草履に手を掛けるやうな無慚な事爲ぬわのう」と相生は匈口穢く

「それでも恥辱が沁みたかして、一縮みになつて在らせおや、斯うもある筈、澤野樣、この所刑、什麼とするでござります」

「御場所柄ぢやで、今日の處は擔ひなく、私の草履は取り上げ、引き取らせて下されいの」と澤野は勝ち誇りたる勇士の態度なり

「お刀は御所持なされても、用をせねば赤鰯同樣でござります、こゝを御合點、澤野樣お發しの出たから、早う御退りなされませ、ちゃと愼して御沙汰をお待ちなされませ」

「何日に盜らぬお慈悲深い御口上、これが澤野樣なればこそ宜けれ、萬一他人樣であつて御覽じませ、此分では濟みませぬ。これに懲りて以後盜み心をお出しなされますな、以前はいかほどお大身でも、町人を親里にしてお上りなされただけ、お心の底が卑しいなど惡口するも知れませぬ、女ながら武家勤めは、慾心よりも忠義でござります、名よりもお刀でござります」と云ひかけて失笑して「眞に私した事が、町人のお娘子にお刀のお話致さうとも、お分りになる筈でございませぬ喃、お刀は武士の資、まさかの時相手を切るばかりではござりませぬ、嘸お辛い恥を受けた時、我と我咽喉斷ち切りて、死後の名を潔うするお道具でござります、あなたお持ち合もござりまするか」

お道の顏は物凄きほど變り、息づかひも又恐しきまで、迫り來る

東京電報

▲通商局長任命　萩原通商局長逝去の後任者搜定中なりしが愈左の通り任命せられたり
總領事從五位勳四等　坂田重次郎
任外務省通商局長（高等官二等）

▲滿鐵理事任命　久保田滿鐵理事の後任に沼田政次郎氏任命されたり

▲四川暴動と米艦　華盛頓來電　米國國務省にては清國四川省に於ける鐵道反對に依り起れる騷擾の形勢頗然險惡なるを以て同地在留米人保護の爲め砲艦數隻派遣方を紐育艦隊司令官長マードック氏に請求ありたる旨米國代理公使ウイリアム氏より電報ありたり

▲拓殖秘書官任命　岩崎幸治郎氏は拓殖局總裁秘書官（高等官五等）に任命されたり

▲露艦の進水式　露國海軍は千九百九年の計畫に係る新式超ドレッドノート級戰艦四隻中ボルダワ、セバストポリは既に進水し殘り二隻の內ペトロパブルスキ號は來る二十三日バルチック工廠に於て他の一隻ガングード號は十月三日ニューアドミラルチー工廠に於て何れも進水式を擧ぐる筈なれば之れにて新式四姉妹艦は全部竣成の筈なり

▲進水式に御差遣　來る十月三日長崎三菱造船所に於て二等巡洋艦矢矧進水式擧行に付竹田宮恒久王殿下を御差遣の旨御沙汰ありたり

▲首相の山公訪問　西園寺首相は河村宮內次官同伴九日午前八時三十分新橋發小田原に赴き古稀庵に滯在中なる山縣老公を訪問し施設に關する大体の意見を述べ歸途に就き同夜は大磯松濤庵に入り十日歸京せり

▲土木機關擴張　近年我國に於て經營すべき土木事業頗る增加し加之治水、港灣、道路の調査監督事務從來より一層激しくなりたれば現在技師技手を增加する事に內定せり

▲柴山氏の光榮　從五位勳六等柴山景綱氏逝去に付　聖上陛下には同氏維新前後の功勞を追念せられ祭粢料金百圓御下賜の御沙汰ありたり

▲八聯隊長任命　砲兵中佐東乙彦氏は野砲兵第八聯隊長に補せられたり

▲新任師團長拜謁　新任の第六師團長梅澤中將、第七師團長林中將及步兵第十四旅團長高橋少將は不日出發に付き御暇乞の爲め明十二日午前十時半參內御座所に於て　天皇陛下に拜謁仰付られ終つて別殿に於て茶菓を賜はる由

雜報

●水害救恤賜金配當　過般御下賜相成りたる水害救恤金の配當に付當來各道の（咸鏡北道を除く）水害被害高調査中なりしが愈々近日發令さるゝ筈なるが其の配當の標準は死亡及行衛不明者一人金四圓傷者一人金二圓家屋流失及全壞一戶一圓同半壞一戶五十錢床上浸水者一戶二十五錢等にして之れを各道配當別に記せば左の如し

道	配當額
京畿道	六十三圓六十八錢
忠淸北道	二百七十四圓六十八錢
忠淸南道	千二百七十五圓五十四錢
全羅北道	千百四十九圓九十七錢
全羅南道	四百二十一圓二十二錢
慶尙北道	百六十四圓十一錢
慶尙南道	千四百七十一圓二十一錢
黃海道	五十七圓五十七錢
江原道	五百七十九圓九十錢
平安南道	千二百六十九圓四十七錢
平安北道	五百三十圓二十九錢
咸鏡南道	二百三十六圓三十六錢
合計	七千五百圓

●朝鮮師團問題　朝鮮に二ケ師團新設する事は寺內伯が陸相として海軍擴張問題に關聯し提起したる重要案件なりしが內閣交迭と共に該主唱者たる寺內伯も陸相を辭する事となりし故現內閣は明年度豫算に於て該師團設置の豫算案を計上せざる方針に決したりと

●八月中の朝鮮貿易　度支部調査に係る八月中の朝鮮貿易總額五百五十萬五千八百七十五圓にして內輸移出額百十九萬四千百十六圓同輸移入額四百三十一萬一千七百五十九圓なり之れを前月分に對照すれば輸移出に於て十二萬七千九百十三圓輸移入に於て百二十五萬〇百七十五圓の增加を見たり尙之れを各港區別に記せば左の如し

港區名	輸移出額（圓）	輸移入額（圓）
仁川	八一、八〇〇	一、二三三、〇二六
釜山	四五九、五三八	一、一一六、九九二
元山	五三、二八二	二一〇、八四三
鎮南浦	二五〇、三八四	二七、九三七
京城	九、五三九	三六三、九七五
群山	三八、一二四	一六九、一〇四
木浦	八四、九二七	一四六、九五四
大邱	……	七三、八六五
馬山	六、四五三	七〇、九四三
清津	三、三六〇	一〇〇、〇二九
城津	六七、三四三	七二、三三一
新義州	一〇四、〇三九	一三、三三六
平壤	二五、三四七	一〇五、四三四
計	一、一九四、一一六	四、三一一、七五九

●內地人布教と鮮人信徒　朝鮮に於ける內地人經營の布教機關は其の規模概して大ならずと雖も近時著しく發展の趨向を示し鮮人信徒三千五百七十四人に及びたるが之れを神道佛道及び基督教に大別すれば神道四百二十三人佛道二千七百六十七人基督教三百八十四人なりといふ尙布教の附屬事業としては眞宗大谷派が京城南山別院內に行旅病者救護所を設け淨土宗が仁川に免囚保護事業を起し何れも或結果を收めつゝあるが這は要するに教勢の振興と信徒の增加を期し大に護法資治の業に盡さんが爲めなりと

●朝鮮煙草と滿洲　朝鮮に於て製造する紙卷煙草は從來少量ながら滿洲方面に輸出され而も累年約一倍の增加を呈しつゝあり本年上半期の輸出高は昨年の同期に比し約五倍の多額に達せるが畢竟這は近時朝鮮に於ける煙草製造業發達し產額の增加に伴ひ販路漸く擴張したる結果に外ならざるべし尙本年上半期の輸出數量は千百八十万五千個にして此價格一萬一千五百五十八圓なりといふ

●牛皮貿易趨勢　朝鮮の牛皮は每年其の大部分は日本內地に移出し製革原料としての需要を充しつゝあるが本年上半季に於ける移出斤數は百七十萬七千四百斤此の價額四十万六千六百七十六圓にして之れを昨年同期に比較せば斤數に於て十五萬二千百六十三斤價額に於て二万百九十二圓の增加を見たるが要するに這は本年後半期に於ける內地製革業者の買進みと出廻りの良好なるに加へて一方淸國及香港方面に於て上値を唱へしため製靴向牡大皮の輸出殊に多額に上りしに依るならんといふ尙本年上半期淸國に輸出せし斤數は五十三萬九千九百九十六斤此價額十三萬四千二百五十二圓にして之れを昨年の同期に比較すれば斤數に於て十一万六千一斤價額に於て三万四千五百二十七圓の增加を見たるが此の他香港へ向け年々輸出しつゝある斤數も夥たしきものなりといふ次に生牛の輸移出も頗る多く大部分は日本內地に移出さるゝが一方近來は西比利亞駐剳露軍糧用として需要著しく增加し動もすれば供給不足を告ぐることありと

●鮮海漁業成績　明治卅八年以來の朝鮮沿岸に於ける漁業中最も成績良きは鰯業にして三十八年より四十三年迄の總漁獲高は鰯地曳網卅九萬八千圓巾着網六十一萬五千圓あり其他鮑海鼠の潛水漁は約卅六萬圓あり最も成績惡しきはサヨリ千二百圓にして今三十八年以降の漁獲高を年別すれば左の如し（單位圓）

年	漁獲高
△卅八年	一、八五四、四五〇
△卅九年	二、〇一四、一〇〇
△四十年	三、七三九、二五〇
△四十一年	三、四一八、八五〇
△四十二年	三、〇七六、八〇〇
△四十三年	三、九〇五、八〇〇

●釀酒業と移入酒　朝鮮に於ける淸酒釀造業は年を逐ふて發展し釀造業も著しく增加せしが其の割合には內地より移入する淸酒に影響なく却つて昨年上半季の移入額二十七万一千七百圓に比し四千百圓の增加を見たりと尤も移入の割合は大体に於て幾分減少しつゝあり

●黑鉛輸出の狀況　交通不便の地方に在ては本品の坑區と輸出港間の運搬頗る困難にして回著狀況の如何に依り輸出額の消長を來すものなるが本年は上半期に於て昨年持越品の多かりしため輸出容易なりしと英、獨に於ける需要の增加に起因し數量四万六千六百三十五擔價格四萬七千一百三十六圓にして昨年に比し五割六分を激增せり而して本品は主として內地向なるが右は船便の關係に基くものにして大部分は移出後外國船舶に積換らるゝものとす

●慶南の大麻產額　京城商業會議所調査に係る慶尙南道に於ける昨年の大麻產額を聞に同年度作付反別一千二百六十二町步にして同生產額十四万五千八百七十二貫賣價は品質により一貫目三四十錢より一圓內外なりしと云ふ

●各港稅關工事概況　最近に於ける仁川釜山平壤鎮南浦の稅關工事の工程を聞くに仁川の築港は既報の如く稻田組の請負に係る汐止工事は既に着手し來年の秋頃には竣成すべく尙浚渫船は豫て獨逸に注文中の處過般建造を了へ昨今仁川に向け航海中なるを以て來十二月には着港すべき豫定なりといふ釜山築港に就いては過般浚渫船を大阪鐵工場に注文せしが來春頃には着港すべく大棧橋工事は昨今計劃中にて這は既報の如く向ふ三年間浚工の豫定にて浚工の上は大船四隻を繋留せしむるを得べしと鎮南浦の築港工事は仁川と同じく目下船渠工事に着手せるが浚渫に就ては仁川の如く大仕掛の設備を爲さず人夫の手にて浚渫し居れりと云ふ平壤は大同江中の鳥灘洞の淺瀬浚渫工事停車場より稅關迄の鐵道敷設工事なるが鳥灘洞の工事は小形の浚渫船を使用して既に着手し鐵道工事は此程設計完了し土地も買收濟みとなりたるを以て早速敷設工事に着手すべき豫定なりと云ふ

●京城競賣の開業期　京城家財器具類衣服書畫骨董及び土地家屋の仲介競賣及び賣買を目的とし資本金五萬圓を以て設立の京城競賣株式會社は七月二十日創立總會を了へ爾來明治町に競賣市場新築中の處工事も殆んど落成せしに付來る十五六日頃より開業の運びとなるべし尙同社は池田長次郎氏を專務取締役となすことに決定　既に淸國大連其他の方面より書畫類の競賣を依賴し來れりと因に競賣場開市は三八の日を定日とし依賴者の都合にて臨時開市することとなるべしと

●鑛床調査進捗　既報の如く農商工部の鑛床調査は昨年平安南北道及び咸鏡南道の一部を調査中なるが京義線以西平北道一帶黃海道の一道及び咸南道の永興安平は本年一杯にて完了すべく他は漸次着手すべき豫定なりといふ

●八月中の京城出入品　京城稅關出張所に於て八月中に取扱ひたる移輸入出品價格左の如し但し圓位

輸出及移出品之部

品目	價格
牛皮	四七二五
諸品	四八一四
合計	九五三九

輸入及移入品之部

品目	價格	品目	價格
小麥粉	一七三八〇	果實類	三二四四
鹹魚	五九五五	罐壜詰食品	三九七四
砂糖	一七五五三	淸酒	一〇七〇三
麥酒	二四〇六	雜酒類	一六四〇三
蠟燭	六二五	繰綿打綿	四二四七
綿絲	一九一五五	生金巾	三七四六八
晒金巾	六三八九	天竺布	一五六
綿縮子	四八一	日本木綿	八〇〇六
麻布	二一三	毛織物	一〇〇九四
絹布	九四三八	交織布	三一三三
靴及履物	六九八一	紙	三一五九
諸文具	五〇三九	書籍雜誌	四九一三
熟鐵	五三五	鐵鍋及釜	五一三三
鐵釘	四八	諸機械類	八〇三三
煙草	五三九六	陶器磁器	一七三四
木材及板	八八九	叺繩莚	一四〇四
家具	二〇六八	燐寸	一三八三
木製品	一四五九	洋傘	五五五
小包郵便物	一三九六六八	諸品	一八九〇一八
合計	三六三九七五		

備考　生金巾晒金巾の中には生シーチング晒シーチング綿縮子の中にはイタリアンスを含む

●取引所の發起人會　豫て設立の計畫ありし京城取引所の發起人會は十一日午後七時より京城日本人商業會議所樓上に於て開會されたり

●松永師團長招宴　松永師團長は十一日午後六時より龍山官邸に於て上田司令官を主賓として山縣總監各部長官陸軍諸將校等を招き盛大なる招宴あるの筈なるが山縣總監は中山大佐、藤波通譯官を隨へ臨席の由なり

●鑛業許可件數　農商工部調査に係る八月中各種鑛業許可を與へたる鑛區及鑛業別並に同坪數を聞くに如左▲金鑛五件同坪數二百二十七萬六千六百七十二坪▲金銀鑛一件九十八萬九千二百三十坪▲砂金三件二十萬八千九百二十四坪▲金銀鉛一件六萬七千八百六十六坪▲黑鉛一件二十八萬八千六百四十坪▲石炭一件八十八萬〇二百七十八坪等なりしと

●舊度支部廳舍處分　貞洞に於ける舊度支部及法部の廳舍は目下僅かに專賣局の殘り居るのみにて空屋となりあるが右廳舍へ高等法院及京城控訴院が引移る筈になり居れるも土地調査局は明年及明後年度に於て一時非常に膨脹する結果廳舍の狹隘を感ずるを以て是非該廳舍を使用したしとの希望を有し又高等法院及控訴院が使用すとせば模樣替の姿ありて今日にては未だ何れに使用すとも決定せずとの事

●土地家屋證明數　京城府に於ける八月中の土地家屋に關する證明は千三百〇五件にして其賣買價額七十四萬八千百四十三圓五十三錢なるが右諸證明の手數料は一千四百七十九圓四十錢なりと

●京仁の魚市場　京城、龍山、仁川に於ける魚市場は左記五箇所にして其狀況を示せば
△日の丸魚場　京城旭町一丁目に在り四十一年五月設立、個人經營にして營業者香椎源太郎、資本金一萬圓、四十三年度の賣買額十六萬七千六百圓
△京城水產物市場　京城南大門通に在り三十七年十二月設立、株式會社にして社長山口太兵衛、資本金六万圓、一箇年の賣買額十五萬圓內外
△仁川魚商組合　三十一年設立、組長金昌洙、資本金二千圓、一箇年の賣買額五千圓
△仁川水產株式會社　仁川海岸町に在り四十年十月設立、專務取締役沖津戶十郎、資本金三十一萬圓、一箇年賣買額二十四萬八千百十五圓（最近三箇年の平均）
△龍山水產株式會社　四十二年四月設立、社長德久米藏、資本金七萬圓、一箇年の賣買額六万二千圓

●會議所臨時總會　京城日本人商業會議所にては來る十三日午後六時より同所樓上に臨時總會を開き過般役員會に於て決議したる商工調査會に關し議事を開く筈

●京城の傳染病　警民團調査に係る八月中赤痢病患者三十四名膓窒扶斯患者二十二名の發生を見たるが今月に入りてより赤痢十八名膓窒扶斯六名發生したりといふ

●慶北煙草作豫想　慶尙北道に於ける本年煙草作成績は雨量の例年より多かりしため生育充分ならず病虫又多く發生したるを以て良好ならず總作付一反別約千二百餘町步に對し三十五萬貫內外ならずと云ふさすれば平年作に比し約一割の減收なりと

●政務總監の微恙　山縣政務總監は微恙の爲め十一日引籠り靜養したり

●三輪少將の出發　朝鮮臨時派遣隊第二聯隊長たりし新任豐備陸軍少將三輪光儀氏は十二日朝大邱發歸鄉の途に就かるべしと

●長島大藏書記官入京　長島大藏書記官は朝鮮視察のため十一日夜入京天眞樓に投宿

●小川辯護士の入京　李太王對ロールブラン氏の訴訟は來る十五日京城地方裁判所に於て口頭辯論開始に付原告訴訟代理人小川平吉氏は去る七日東京出發途中京都に立ち寄り來る十三日夜入京の筈なるが原辯護士は病氣のため渡鮮せざる由なり

●英領事代理の歸任　在京城英國總領事代理ボナー氏は久しく歸國中の處十一日夜歸任に付き不在中の總領事代理仁川領事レー氏は仁川へ歸任し近日賜暇を得て英本國へ歸國の筈

●黑石副官の出張　京畿憲兵隊本部副官黑石憲治氏は一週間の豫定にて水原驪州の各分隊視察の爲十日出發せり

●警官練習所卒業式　警務總監部の警官練習所にては十一日修業式を行ふ由なり因みに今回の卒業生は百十二名ありと云ふ

●府民會解散と表彰　漢城府民會の解散期は今尙ほ未定なれども多分來る十八九日頃擧行するに至るべき豫定にて目下解散式の準備中なる由なるが當日は面長其の他の者にして特に民間に功勞ありたるものに對しては銀杯を與ふべしとの事なり

●朝鮮語研究會　朝鮮語研究會は十一日午後一時より總督府會議室に於て開會したるが出席者は鹽川取調局事務官玄氏及、姜華錫、魚允迪、會吉俊の諸氏なり

●種牡牛種付成績　京畿道にては本年三月牛畜改良を計る爲め開城外十郡に對し種牡牛一頭づゝを配付したるが七月末迄の種付狀況は總計六十一頭にして內竹山郡の十七頭最も多く驪州郡の十四頭之に次ぎ朔寧郡八頭龍仁七頭開城六頭等にして他の各郡は二三頭に過ぎずと

●雲山金鑛伐木問題　既報雲山金鑛會社が鑛業經營の爲雲山郡及楚山郡の一部に於ける森林の伐採權を獲得し居れるを奇貨として楚山方面は稍不便なるより渭原郡の森林を無斷伐採使用したるため目下渭原郡に於て金鑛採掘に從事しつゝある某外人は會社の行動を不穩當なりとし某方面に密告したる結果事稍重大となり當局にては警務總監部の手を假りて盜伐の事實を目下調査中なるが會社側は盜伐の問題喧傳されたるより俄かに該森林の伐採特許を請願し來りたる由なるが其の筋に於て調査の結果によらざれば會社へ伐採を許すか否か決定せずとの事なり

●平北慈城郡農作　平安北道慈城郡の本年農作は近年稀なる好況にて平年に比し約三割增收の見込なり

●釜山鎭東萊間不通　九月七日降雨の爲韓國瓦斯電氣株式會社の釜山鎭東萊溫泉間輕便鐵道線路浸水し兩車の運轉を休止せるが復舊期は未定なりと

●鮮銀券發行高週報　九月三日より九日に至る分左の如し

發行平均高	二七、〇〇五、六五七
內　正貨準備	九、一二〇、九九〇
保證準備	一七、八八四、六六七

公人私人

▲前澤成美（平壤地方判事）九日歸任
▲黑崎美智雄（李王職事務官）九日歸任
▲宮崎嘉續（陸軍技師）九日入京
▲貝島得（海軍大主計）十日浦尾館へ
▲井上元成（憲兵大尉）十日山本旅館へ
▲入田吉平（横須賀技師）十日浦尾館へ
▲平熊友明（林務官）十日釜山行
▲柿原琢郎（檢事）十日平壤行

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
九月十日	一二六、一九七、四四〇	八〇四

▲治外法權▼

寺內御前閣下樣、其の御用紙と云へば立派のやうだが、實はオサキ眞暗の提灯新聞京日紙、聞けば此頃はローツクも盡きカケたとやらで、足許はシドロモドロ▲九日附本紙本欄の所說に就いて提灯君のゴ立腹は大したもの、例の筆方を以て本紙に社會的制裁を加へる外はなからうと宣敎か、彼れ提灯は到底自家が釣鐘に向つてドウすることも出來ぬ事を悟り、社會的制裁と出掛けたところ、併し聞いて置くが、新聞紙規則中に社會的制裁なんぞゝ云ふ洒たる制裁があつたかね▲ソレはドーでも良いとして、提灯君記者に向ひ「立憲的施設とは如何なることぞ、恐らくは明答し得ざらむ」と言つてゴザル、サテ猪に小判豚に眞珠、ソレと同樣御用記者に立憲的施設の何物たるかを言ふて聞かせるなぞ本來なれば無駄な話、併し御業甲斐に左に言つて聞かソウ▲立憲的施設、まづ其著しき分が會社令の改正、警察制度の改正、國稅の撤廢、渡車賃の値下げ、自治体の存續、新聞紙規則及保安規則の改正▲以上の外にまだ〳〵幾らもある提灯君、ドーだ判つたかね▲荒井度支部長官が大藏次官を引受けなかつたのは、寺內總督が同人を離さなかつたからだと云ふのと、同人が寺內に遠慮したのだと云ふ二說がある、サテ說は何れでも良いが、荒井に今逃げられたら總督府の財政は暗だ▲京城商議と連絡する商工調査會が出來ることになつたソウだ、愈々出來上れば商工界に有用なる機關となるは勿論商業會議所其物の土臺ともなるのだ。



狡猾る髪切狂言

▽前借金を減けさせ樣とて

新町遊廓に娼妓の髪切り事件ありたるが事の眞想を報せんに被害者は

鶴鶴樓の九重事今枝チヤウ(二二)にして同人は昨年十一月迄高島屋にて香梅と名乘り頗る繁昌にて賣妓なりしが高島屋失敗の爲め廢業と同時に鶴鶴樓の開業に伴ひ前借金三百四十圓三年間の契約にて抱へられ九重と改名し現はれて以來流れ妓の一人として席順も中より下らぬ位なりし加害者は別府組

事別府爲次郎實弟信次(當年二十一歳)なる者にして本年二月頃より九重と馴染みとなり互に惚れ合ひ二世も三世もと御定りの夫婦約束を爲し信次は一週に二回位は必ず九重の許に通ひ時には九重の方より逢引する事も屡々なりしかば兩人は一日も早く同棲して苦樂を共にせんと思へども九重は前借金三百四十圓にて三年の契約なれば殘る二年余是迄働きたる分を差引き違約金は別にして支拂はざるとも現在二百八十五圓を支拂はざれは落籍出來ざる位なれば意の如く行かざりしより九重は常に悔み居りたりと然るに去る八日午後七時頃加害者たる信次は鶴鶴樓へ登樓し例に因つて九重を揚げ玉代金三圓五十錢を支拂ひ置て仲より意外に時間早く登樓せし事とて仲居も不思議に思ひ居たるが當夜九重の係り仲居れ駒に纏頭一圓五十錢を與へ信次及九重は散歩に出掛ると稱しれ駒に告げ外出したりと然るに翌午前三時頃當番仲居が九重の部屋に至り見しに不在なるより家内を九重さん〳〵と聲高々に呼び歩行けども一向居らぬより扨は逃げたものと思ひ込み大騷動となり派出所に屆出或は事務所に屆出で係り仲居れ駒にれ先きは告げざりしこそすれ駒は一應別府さんの方に尋ねに行きしも不在なりき然るに一方信次及九重は當夜種々話し合ひの揚句死しようか駈落しようか情死するに命が惜しい駈落ちしては追跡か來ると結局九重の稼業か出來ぬ樣に髪毛を切らば一年以上仕事は出來ぬから、

借金は百圓位に減けるに必然なり其の上**月賦金十圓**位に相談すれば出來る事と旭町二丁目に居住する別府組の某枝子の温突にし髪毛を切りたり一方鶴鶴にては百方手を分け別府組にても心配して捜したる結果午前五時半頃前記の箇所に居たる事判明せし事とて信次の方にては早速落籍談判に着手し前借を百圓に減けて月賦金十圓にと相談に及べり然るに鶴鶴にては右前借を減けて相談に應せば前例となり髪毛さへ切れば誰れでも出來るなる恐れありとて鶴鶴は勿論組合中の問題となり目下悶着中にて其の筋にては内密に取調中なりと

●中和殿內の奇術(下)

覆面冠者

洋樂?と云はふか……樂の音が幽かに響く、煌々と電燈は照らして居るけれども其の聲が夢の如に淡いので「確乎しろ」と云ふ樣な樣子に受取れる、ズドンと銃の音が響く、見ると、一光が

群集の間に釣を下して金魚を釣つて居る李太王殿下は――と見ると閘蓋を卓子の上に下して顎に結んだ帽子の紐を弄りながら好奇の眼を睜つて居らるゝ、誰れもウンとも云はない、スンとも云はない、卓子の上に置かれた硝子の金魚鉢?の内には錦鱗が動く、其數五か、七か判然とはしないが團子と云ふ幼いのが盆を持ち出す其盆に花が盛られる只もウ不思議の眼を睜るのみだ、手鞠の投ひに一光は其の腕の水際立つたる處を見せる、傘の曲

太王殿下の唇は微に動いて「**アイゴー**」と低い而して力ある語が洩れる曲藝の番數は進んで時辰は九時を指す天勝は盛裝したる姿を舞臺の上に現はすと、又何やら呟きの聲が強く響く、天勝の髪には銀簪の光が閃く其洋裝の服に縫ひ込んだ白銀の玉が、風に閃き燭い照り映ねてキラ〳〵と美しい、肉づき豊かなる――而し細くー、而して繊かな腕は何物にも敵はるゝ所なくて其曲線美を發揮してる堂の外には犇々と**查公や輿丁**や**衛兵の非番**なるのやが詰め寄せる、陪觀者の數は八百にも餘るだらうが森閑として無人の境の如だ。天勝の技、番組の其の番は進んで色紙の數々を掌中から採み出す皆不思議の眼を睜つて、呼吸も吐かずに見て居ると

巴李花大旗は天勝の頭の上に翻る、殿下は淋しく「カラ〳〵」と笑はれる、眼の中には昔を憧ふ心の色が漂ふ、九時三十分と云ふに太王殿下の卓子には料理の皿の數々が運ばれる

「御食事」「御晩餐」と云ふ言葉が群集の中に繰返される、暮は下りて群集は又元の靜さに返る、只殿下の匙は皿に當つてカチ〳〵ツカ〳〵ヂ鳴るのが僅に其の寂寞を破る、一皿に對しても一皿に對してもれ料理を下賜される、殿下は唯一度便所に立たれた限りで始終熱心に觀られた、月は南山の巓に淡い夢の如な光を投げてヒヤ〳〵とした風は虫の音を載せて夜はよう〳〵に更けて行く中和殿内、天勝の奇術の内にも秋の色は見へた。

●東郷大將トーゴーと握手す

讀者よ先月四日東郷大將が華盛頓に到着せし際停車場にれける山なす歡迎人中にトーゴー、マシユースなる六歳の少年を伴へる一夫婦ありて東郷大將に對し切に我兒のために洗禮式の名親たらんことを乞へり此少年は米國バルチモーア市ウエスト、フエイエツト町に生れたる者なるが其の誕生日は恰も東郷大將が三十八年日本海の海戰に大勝を博したる日に當りしより同兒の双親は大將の當名を欽慕せる折柄とて我兒の前途に幸われかしと之に因みてトーゴーと名づけたり、爾來兩親は東郷大將に逢ふ好機會もがなと祈り居れるが偶々大將來米せりと聞き、歡喜措く能はず逸早くも華盛頓停車場に大將を待受たるものなりき、かくて大將は九日バルチモーア市の見物に赴きたる際マシユース夫妻は我兒トーゴーを引連れて大將を出迎へしが大將は群集の中にトーゴー少年は愛らしき手を差伸べ大將と握手し少年は美しき薔薇の花環を捧げぬ、少年は此日白の水兵服を着けたるに同じく白服着たる東郷大將は莞爾として少年の手を取り茲にバルチモーアの小トーゴーと日東帝國の大トーゴーが熱心なる變驪の光景は對照宛も繪の如く大將は親しく流暢なる英語を以て「予は汝に遭へるを喜ぶ、予は汝の幸福なる前途を祈る」と云へば少年の兩親は手の舞足の踏む所を忘れて喜悦に堪へずマシユース夫人は「トーゴー、トーゴー、マシユースは東郷提督の幸福、萬歳と一路平安ならん事を祈る」と記せるカードを贈りぬ、されば美しき出來事は其處に集まれる多くの出迎人には云ふまでもなく多大の懐しき感興をすべての米國人の上に醸す渦紋を撲むるが如くに波及せり尚該大將は始終同市にれいて通譯を通じて何人とも應對せるに拘らず親しく大將の言葉を受けたるトーゴー、マシユースは幾多の歡迎者中に唯一人なりとて持囃され居れりと同地のイブニングサン紙は報じ居れりと

●橫領告訴の取下

本籍東京市下谷區御徒町一丁目五十三番地當時龍山祝町百七十八番戶居住無職白井政太郎(三四)は去る四十二年二月中本籍地へ妻を置き捨て渡鮮し姓不詳ちせ(四五)なるものと京城大和町一丁目三百四十七番戶に一戶を構へ政太郎は何事なす事なくちせは衣類の洗濯、並に仕立直しなどなし僅かに其日を送り居りしが政太郎は京城本町一丁目柳澤淺太郎同旭町三丁目勝村よし同大和町一丁目越智宗十郎等より衣類數十點慶尙北道金泉郡町居住山本順吉より簟笥衣類等を洗張り直しとして預りたるを悉く本町一丁目中村及び南の質店へ入質し簟笥は賣却して費消したる上蹤跡を晦まし前記の處に何氣なく居住し居りし處此探知せられ右四名の者より橫領罪として龍山警察署へ告訴せられたる處羅南の某官吏に嫁しある政太郎の娘及び京城明治町に住する實弟某之を聽き付け爾八に於て費消金全部賠償する事となりて示談整ひ右四名の者も今回告訴取下げたる付政太郎は龍山警察署に於て訓戒放免せられたりとは目出度

チャンピオン傳

近日より連載す、チャンピオン傳は即ちチャンピオン傳なり、蓄財、工匠、遊藝、容貌、食慾、漁色、手藝、弄花等何でも好術の美醜に論なく其道に掛けてのチャンピオンの傳を連載す例へば何某氏の浪花節に於ける何某氏の奥樣の天理教と云ふが如し、投書を歡迎することと平常に同じ

●貸さぬとて亂暴

歩兵第二中隊、村兵卒尹泰錫金澤檀具寛觀朱奉登の四名は十日午後四時頃より南部明哲坊双林洞一統四戶酒幕安然弼方にて飲酒し酒代八十錢の不足を生じ主人に貸せと言ひたるに應せぬとて亂暴を働らき警官の說諭に服せず巡査補を毆打し第一憲兵分隊に引渡さる

●人力車を食ふ

本町一丁目裏通り二十一番戶笠井方德島縣人仁尾庸男(四〇)が本年一月より笠井金彌方に雇はれ中笠井の營業に係る人力車及附屬品賃掛代金三百六十一圓餘を橫領費消したる事件は懲役六月に處せらる

●無鑑太夫は拘留

既報新町大和新地松の家內熊本縣人吉田ひめ(二五)は拘留三日同白石かめ(十八)は拘留五日に即決されたり

●精養軒の移轉披露

西洋料理店精養軒は從來の家屋にて手挾を感ずるより旭町一丁目新一番戶(元大村氏別邸)に移轉開業從前に倍し大勉強をなすべしと云ふ因に右披露旁々十一日午後四時より知己及新聞記者を招ぎて小宴を催せり

●橫領して[illegible]

鹿兒島縣人當時商部榮洞二統五戶愛甲丈夫(三一)は四十三年九月中橋口直夫の鑛業に係る忠淸南道靑陽郡邑內金礦採掘に從事中橋口が白齒敬に貸附ある金百圓の取立委任を受け數回に亙り領し內金四十七圓を橫領費消し京城地方裁判所に於て懲役八月に處せらる

●仁川製鹽所のボヤ

十日午後十一時頃仁川濱町仁川製鹽所の煙突より盛に發火し既に大事に至らんとせしを附近の者大騷ぎをなし消止めたるが同所の煙突より發火せしは一再ならざるより今後飛火を防ぐの方法を講ぜざる時は危險千萬と云ふべし

●玉屋席の大繁昌

小林てつ子は金紋と堀內はつ子は小金と山田とき子は金子と名乘り浦華亭の梅の助の四名は京城券番玉屋席より左褄取つて今晩はと現はれたり

●泥醉徘徊して拘留

曙町十六番戶兵庫縣平民津田軍次(二六)は十日午後八時半頃明治町二丁目を泥醉して徘徊中を所轄署に告發され拘留五日に即決

●仁川判決一束

仁川府內洞金仁守(十八)は昨十一日仁川區裁判所に於て懲役三ケ月▲龍洞李根烈(二九)は懲役五ケ月に處せらる

●取消

拜啓貴社益々御隆盛奉大賀候陳者本月六日發行貴紙第七百六十八號第三面雜報欄內石部金吉沈沒すとの題下に當店々員富岡信次郎に關する記事有之候處同人は去る八月三十一日大阪へ出張を命ぜられ翌九月一日出發同三日大阪へ到着出發及到着之際共其旨電報報告致來居候に付前記事の如く仁川に於て遊興する等の事は事實上あり得べからざる義に有之候無論當店に於て本人の行衞を搜索等致したる事無く全然無根の事實に付此の全文を掲げ御取消被成下度此段御依賴申上候也

明治四十四年九月八日 群山幸町三橋支店

京城新報社御中

●寶六庵の萩花

萩花が咲いた栗飯が出來る美味い而し美しい……相だ、ではチツとも美しくもなく美味くもない兎に角一度は食べて試もし又眺めもせんでは無理だ、と思ひついて十日の夕寶六庵を訪れた、默つて表坐敷へ通る、室は除虫網で張り詰められて蝿一匹も居ない—は少々嘘だ、蝿は居る併し他の火取虫又は蝶の如なものは這入つて來ない、浴衣に着換へて湯を浴びる而して栗の甘煮をホクリ〳〵と喫る、寂閑として深山の奥の如だ、丁々と斧の音が窓の外に遠る、見れば鮮人が薪を割つて居るのだ

萩の上に暮の色が見ねて幽かに、かすかーに虫の音が聞ねる、チロ〳〵いゝいゝ〳〵ホロ〳〵コロ〳〵と夢の如だ、月光の下を小徑を辿つて離座敷に虫聽きと洒落れる、京城にも斯う云ふ所があるか、と思ふ程に眺めが繪の樣である室は同じく虫除網で張り續らしてあるから火を取る虫のうるささもなく悉に秋の色を賞することが出來た、家族携帶の〇〇氏は栗飯の甘きを賞して居られる、夢より淡い秋の色を月にあづけて歸つたのは十二時近い頃であつた。(し生)

●辻屋店頭の卅分

白面子

九日夜七時四十分由本町の辻屋の前に數十名の群集を見る何たらう?と近寄ると蓄音器を回して居るのだ、奈良丸の南部坂雪の別れが今終つて大高源吾の媒竹賣兩國橋の上下普其角と附合いの一席も濟んで鼻色浮れ節の樣々が演じられる三十七八才の紳士風の方が七歳と五歳位の嬢ちやんとを伴れて熱心に蓄音器を聽いて居られたが年上の嬢さんが「唱歌は無いんですか」と物足らぬ氣なるを見て取つた店員早速、鐵道唱歌、君が代、小楠公等の數種を演る、紳士風の方は店員を捉ねて何程位で一寸揃へる事が出來るかに就いて尋ねてると松浦君が出て來て說明を初める、最初は玩弄品か奢侈品の樣に思はれて居た

蓄音機も此頃では一種の家庭の必需品となりました殿中都會に遠い地方に住居なさる家庭に無くてならぬものとなりました、ユーホンと申しますラツパ無しは二十五圓からあります而して譜は一枚一圓から一圓五十錢迄ですから二十枚添ねると致しまして

五十五六圓もありますと

不斷に樂になることが出來ますソシテ毎月一枚か二枚宛新らしいのを御買になりますれば深山で御座います旦那方が一遍藝妓買を御倹約になれば家庭に於て毎日樂めます、と尤もらしい事を言つて居る、群集の中の誰やらがウーンと妙に節をつけて咳拂ひをする人がある、と源次君何を感ずつてか「私は

藝妓買は全然廢しました詰りませんからなア」と云ふ餘り詰らなさ相でもない顔つきだ、奥さんは僕を見附けて紅茶にブランデーを入れて運ばれる、松浦君曰く「藝妓買ひは社會の信用を失ひますよ」と、清華の一騎、井門の蝶々なぞの辯解がある處へ取引所問題に關する通知書が來る、話は又其方へ飛れた、何か話がつて八時十分暇を告げる、奥さん曰く「惡い事が御座いましたら御遠慮なく御掲載下さいまし、皆んな樂になりますから」と巧者い事を仰云る、フイと飛出すとゴム輪の鈴がチリンと靜かに群集の間に消ねて行つた